大学院生VOICE

かとう　りな
加藤 莉奈さん

在校生

2023年度入学

2022年3月
日本福祉大学
スポーツ科学部卒業

私はパラスポーツやスポーツ科学研究に携わる仕事をしながら大学院で学んでいます。職場で必要な知識を深めて、さらに活躍したいと考えて大学院進学を決めました。

仕事を続けながら大学院を修了することは容易ではないと想像した中で、私にとって救いとなったのが「長期履修制度」です。この制度は修士課程期間を2年間から3年間に延長する制度です。この柔軟な制度のおかげで、自分の仕事を継続しながらも、計画的に研究を進めることができています。

授業については基本はZOOM参加、仕事の都合が付けば対面参加と併用しながら受講しています。指導教員とも連絡が取りやすい環境が整っており仕事と勉強の両立ができています。

みかみ　のぶお
三上 信雄さん

在校生

2024年度入学

福井大学
教育地域科学部卒業

私は現在、福井県にある特別支援学校で保健体育科の教員として勤務する傍ら、パラスポーツの競技団体等でも活動しています。

こうした実践を通して、障がいのある方々が日常的に運動やスポーツに親しむには、どのような視点が必要か、どのような障壁があるのかを学びたいと考え、大学院への進学を決意しました。

本学はオンライン受講や夕方の開講など、柔軟なカリキュラムが魅力で、働きながら学ぶ私には最適でした。

特別支援学校での勤務と並行し、得た知見を教育実践に活かし、現場の気づきを研究に反映する往還を重ねています。

やすい　はるな
安井 晴菜さん

修了生

2023年度修了

2022年3月
日本福祉大学
スポーツ科学部卒業

高齢者スポーツに興味を抱き、大学院での研究を通じてその価値を深く理解しました。その後、健康づくりやトレーニングに関する商品を提供する企業に就職しました。

大学院での学びは、研究指導を通じて結果への筋道や根拠を重視する姿勢を身につけさせてくれました。これは私にとって、就職活動においてだけでなく、人生の決断においても重要な基準となりました。その結果、自分自身が真に価値を感じるものを追求する意志がより明確になりました。

大学院で培ったこの価値観は一生の財産となり、学生時代から現在に至るまで、さまざまな場面でその重みを感じています。

院生の研究テーマ・内容（例）

・研究テーマ「陸上競技用車椅子専用シミュレーターを用いた前輪車軸位置ティルト変化による脊髄性障害クラス別シーティング評価」

レーサー専用のシミュレーターを用いて、ティルト高さの変化が選手の駆動に与える影響について検討。
パフォーマンス向上を目的として、選手個人の主観的な感覚に基づく評価ではなく、定量的なデータに基づいたレーサーの設計および調整項目を明らかにする。

・研究テーマ「バレーボールにおける予測の学習特性　ーサーブの方向予測に着目してー」

バレーボール経験を有する男子大学生16名を対象者とし、部活動経験群と部活動未経験群の2つの群に分けて実験を実施。
バレーボールにおける予測の精度がどのような過程で高くなっていくのか、また精度の高い事前情報はどのように学習されるのかを明らかにする。

・研究テーマ「岩手県における卓球バレーの普及の実態に関する研究」

岩手県障がい者スポーツ協会の卓球バレー事業担当者や卓球バレー大会参加者等にインタビュー調査を実施。
岩手県における卓球バレーの普及過程とその要因、また障害のある人とない人がともに参加するスポーツ実践の参加者及び関係者に対する影響を明らかにする。

研究指導に関する流れ

入学前
- 希望するスポーツ科学領域の相談

1年次
- 4月
  - 主指導教員・副指導教員決定
  - 研究課題の決定、研究計画書作成
- 10月
  - 研究計画書提出、研究計画発表会
- 11月
  - 研究計画書審査
  - 研究倫理審査

2年次
- 4月
  - 論文作成（データ収集）
- 11月
  - 修士論文提出
  - 修士論文審査・最終試験
  - 修了審査結果の通知受領
- 3月
  - 学位取得